

地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)

事業概要

1. 背景・課題

■『人口減少が地域経済の縮小を呼び、地域経済の縮小が人口減少を加速させる』という負のスパイラルに陥ることが危惧されている。

■地方と東京の経済格差の拡大が、東京への一極集中と若者の地方からの流出を招いている。特に、地方圏から東京圏への転入超過は、大学入学時及び大学卒業・就職時の若い世代に集中している。

※大分県は15～24歳の層において、2,279人の転出超過(平成26年)となっている。

■地方の人口減少を克服していくため、意欲と能力のある若者が地域において活躍できる場の創出等に取り組むことが必要である。

2. 地方創生推進事業(COC+)の方向性

■地域における複数の大学が、地域で活躍する人材の育成や大学を核とした地域産業の活性化、地方への人口集積等を推進するため、地方公共団体や企業、NPO・民間団体等と協働し、当該地域における雇用創出や学卒者の地元定着率の向上等に取り組む。

3. 大分大学が申請している計画概要

■事業名 地域と企業の心に響く若者育成プログラムと大分豊じょう化プラン

■事業目的

本事業の目的は、学生が段階的に能動的な課題解決能力を獲得できるよう支援することで、大分県地域においてリーダーシップや業種を超えた異分野連携力を発揮し、大分県の経済社会の活性化に貢献できる人材を育成することである。以下を具体的な目的とする。Ⅰ. 連携大学等とともに、大分県地域の歴史・地理・産業・人物等について学ぶ授業(基盤教養)や企

業の求めるジェネリックスキル等を修得する授業(一部高度化教養)を設定(学×学連携)

【目的1】各大学の強みを活かした学×学連携を構築。異大学の学生間相互コミュニケーション力向上。

Ⅱ. 「産業界と協働」し、インターンシッププログラムを構築(地域企業・自治体連携)

【目的2】インターンシップ参加を通じ、学生が「当事者意識」を持って、個人・企業・県外(観光者)などの「多様な視点」での課題探求・解決。

Ⅲ. 高度化教養にて複数学部で構成する異分野学生チームを形成しPBL実施(COC+大学主体)

【目的3】学部横断的な「多様(異分野)な視点」で大分県地域や企業の課題を抽出し、解決策を追

求。以上、「文理融合した多様な視点の組み合わせ」により、生産性の向上、新規商品・サービス開発・市

場の開拓などを牽引・率先できるリーダー人材の育成を行う。この育成により地域の営利組織の新たな

事業展開など利点が生まれることを目的とする。

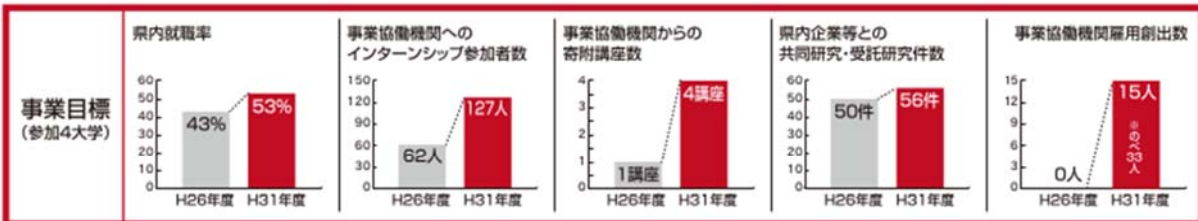
■事業規模等

269,848千円（平成27～31年度）

うち補助金申請額 204,102千円

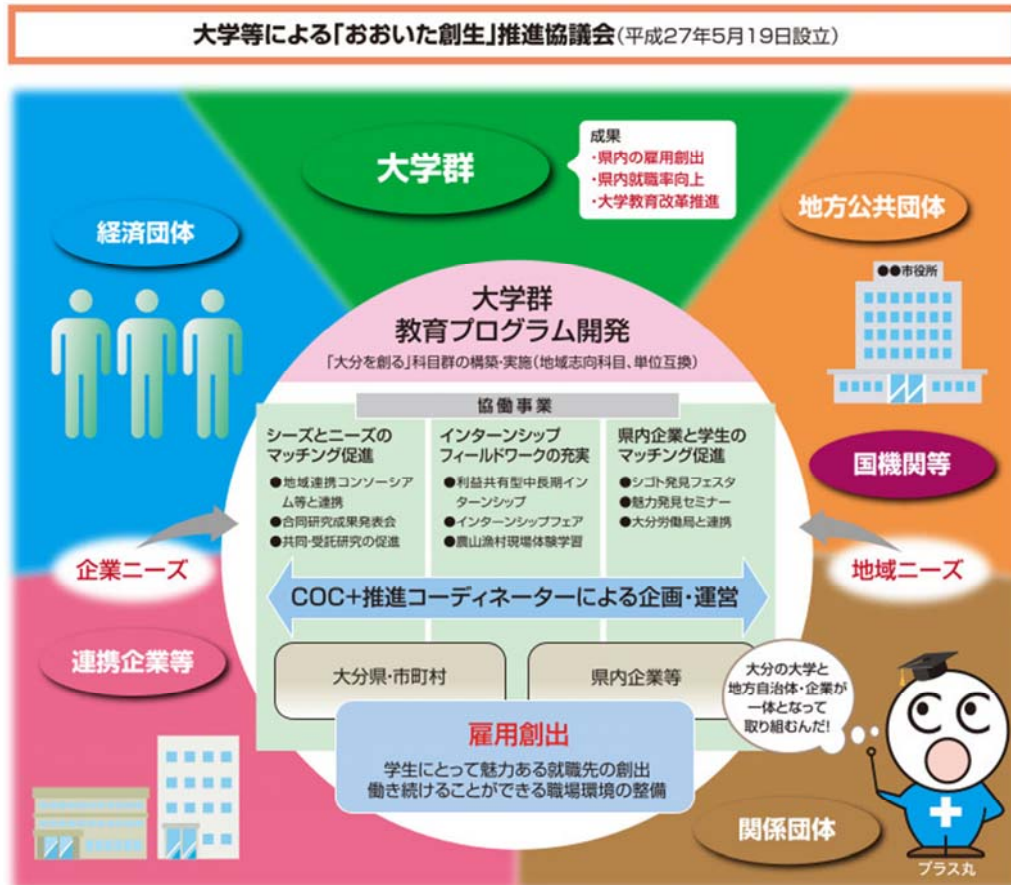
※平成32年度からは、独自の財源で事業を継続予定

4. 事業目標（参加4大学）

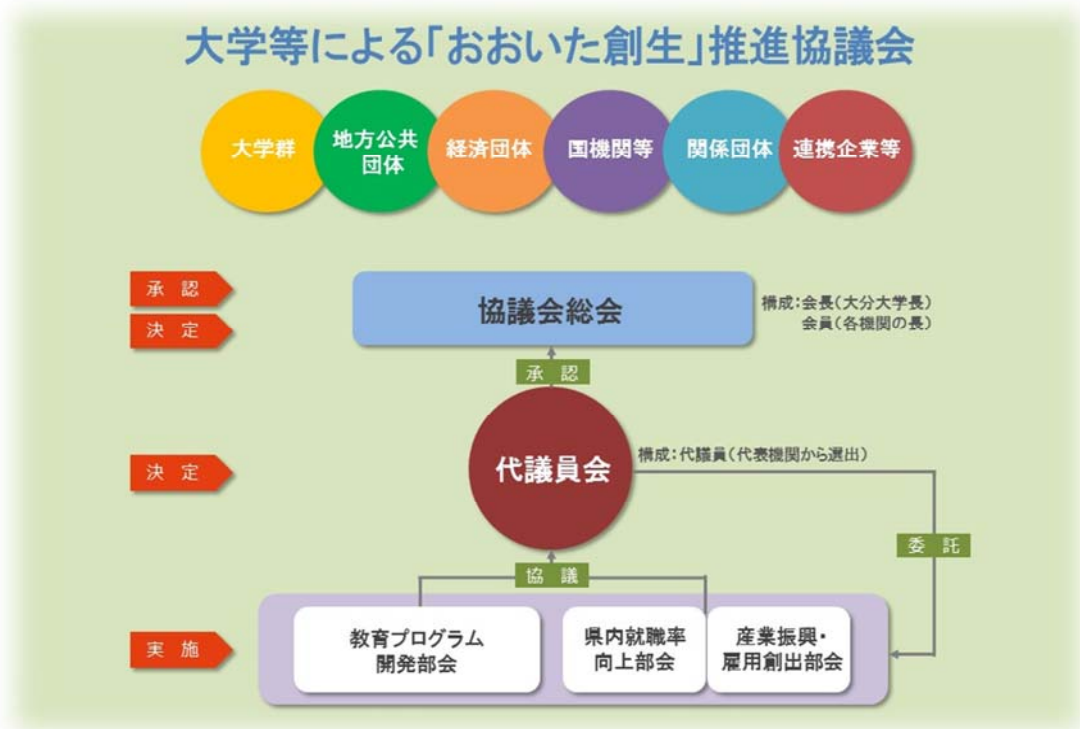


COC+事業実施体制図

■「地域と企業の心に響く若者育成プログラムと大分豊じょう化プラン」の実施体制



■COC+事業推進体制



■大分大学COC+推進機構

